

令和3年度 道徳授業地区講座 授業実践報告

【第1学年】



題材名	決断！骨髄バンク移植第一号（新しい道徳1 東京書籍）
題材の概要	自他の「いのち」の大切さについて、あらためて考えるきっかけとする。また「いのち」あるものは互いに支え合って生き、また生かされていることに感謝できる心情をもたせたい。
授業のポイント	悩みながらも自分の骨髄を提供した主人公の姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする気持ちをもてることを目標とする。
授業実践を通して	導入に AC ジャパン骨髄バンク協会のCM を見せた。またオリンピック競泳選手、池江里佳子さんの話題にも触れ、当時は彼女が病気を告白することで若者のドナー登録数が2倍増になったことを話した。移植第一号となった主人公の揺れ動く気持ちを理解し、もし自分であったら「ドナー登録をする・しない」を心情円を使って発表させた。結果、約半数ずつの意見があり、中学生の正直な心情がうかがえた。助け合いや自分の行動が誰かの「いのち」を救うということが分かり、「いのち」について様々な考えを共有できた。

【第2学年】



題材名	最後の酸素ボンベ（モラルジレンマ教材）
題材の概要	「国境なき医師団」の一員としてボスニアに派遣された貫戸朋子さん。物資の届かない状況の中、もう助からないであろう5歳の男の子に最後の酸素ボンベを使うべきかの判断を迫られる。
授業のポイント	最期の酸素ボンベを助かる見込みのない男の子に使うべきかどうかの判断を通して、生命について多面的・多角的に考えさせる。
授業実践を通して	酸素ボンベをどうするかについて、真剣に考え話し合う様子が見られた。黒板に書かれた数直線上に自分の名札を貼り、クラス内での意見の分布をひと目で分かるようにしたが、他者の意見を聴く中で考えが変容し、名札の位置を変える生徒もいた。医師として「目の前の命を救う」か「より多くの命を救う」か、葛藤する生徒が多かった。トリアージの考え方も提示しつつ授業を展開したが、立場が異なればそれに伴い酸素ボンベをどうすべきかの意見も変わるので、多角的に命について考えを深めることができたようであった。

【第3学年】



題材名	その子の世界、私の世界（新しい道徳3 東京書籍）
題材の概要	国際問題について考える題材である。1時間目では紛争や児童労働の中を生きる子どもたちの写真を見て、ディスカッションを行った。2時間目では谷川俊太郎の『そのこ』という児童労働についての詩を読む。そして詩から感じたことを話し、児童労働を強いられる「そのこ」のために自分達にできることはないのか考えていく。
授業のポイント	2週かけて国際問題と子どもたちについて学ぶことでより題材を深く考えることができるように工夫を凝らした。また、日本の外で起きていることで想像がつきにくいこともタブレットを活用し、視覚教材を豊富に使った。これまでの中学校生活で学んだ知識や経験を生かし活発に議論をさせていくことを目標とした。
授業実践を通して	生徒達は紛争や児童労働に苦しむ子どもの写真にショックを受け、自分達にできることはないのか真剣に話し合っていた。チョコレートを買うことがカカオを作る国の子どもへの支援となる「身近な生活の中からできること」、フェアトレードやSDGsのような「日本や国際社会の規模できること」など様々な意見を出していた。また、国際問題の解決の難しさを実感しつつも、一人一人の小さな力が大切だと話す生徒もいた。今回の授業で知ったことや考えたことをきっかけに広い視野をもち卒業して行って欲しい。

【1組】

【1年】



題材名	こまったプレゼント
題材の概要	自分の理想の店と友だちとの友情との間で悩む姿を通して、「本当の友だち・友情とは何か」を考える。
授業のポイント	<ul style="list-style-type: none">• 行動の選択の理由を聞き合うことで自分の大切にしたい考えを明確にさせる。• お互いを大事にした、よりよい行動選択を考えさせる。• どの行動にも、友だちの思い（友情）だけでなく、自分の思い（自分の理想）も大事にしている点があることを考えさせる。
授業実践を通して	<ul style="list-style-type: none">• 実態に応じて、伝えるとしたらどのように伝えたらよいか、隣同士で伝えあう等の活動を実施してもよいと思った。• 友情をどう感じるのか問い返して考えさせるのも良い方法であった。• 友だちだからこそ悩むこともあるが、その上で気持ちを伝えあうことの大切さにも気付いてほしい。• 友だちへの思いや友情についての意識の変化があった記述があれば、取り上げて紹介した。友だちだから「自分も相手も大切にしたい」という意見もあった。• 「相手のことを考えて悩むのはわかるが、友だちならお互いにきちんと話すことが大事」だと気づいた生徒もいた。

【2年】



題材名	「心によりそう」 （新しい道徳2 東京書籍）
題材の概要	他の人の気持ちに寄り添いながら、温かく接するとはどういうことかを考え、他者の思いやりにつながることで人は感謝の気持ちを抱くとともに、今自分がこうしてあるのは多くの人に支えられてきたことに気付かせたい。
授業のポイント	教科書の題材とは別に、「賢者の贈り物」という思いやりについて考えさせられる映像資料を活用し、生徒の気持ちを揺さぶるとともに、「心によりそう」ということは簡単なことではないが、他の人の気持ちや立場を尊重することの大切さに気付くことを目標とした。
授業実践を通して	自分が発表するだけでなく、友だちが発表した意見をメモするなどして考えを共有することができていた。また、主人公の気持ちについて考えることを通して、相手の心によりそいながら接していくためには、「自分が相手の立場だったら…」と相手の気持ちを考えて、優しく接することが大切であることに気づいた。

【3年】



題材名	ココロ部！ カメラマンの選択
題材の概要	自分の将来のことに対して考える題材である。カメラマンが長年の夢をかなえるためにファッションカメラマンになることを選択するか、長年支えられた写真館を続けるかその選択に悩む。この内容を通して働く中で自分にとって何が重要であるか考え、働く意義について考えさせたい。
授業のポイント	映像を視聴し、生徒自身がカメラマンになって考えることで ・働くこととは何か ・働くために必要なことは何か ・自分にとって働くことで重要なことは何か について生徒自身で明確にすることを目標にした。
授業実践を通して	映像を見ることでカメラマンの立場に立って、長年の夢をかなえるためにファッションカメラマンになることを選択するか、長年支えられた写真館を続けるかを自分のことのように考えることができた。どちらを選択しても、メリットやデメリットがあることや金銭的問題や時間的な問題も視野に入れ、より現実的に職業に対して向き合うことができた。